

Q.優勝カップ?

13cm



26cm

びっくりコーラ
¥280~500ml

A.いいえ、コーラです。

優勝おめでとうございます。賞品のびっくりコーラ500mlでございます。いえいえ本当は商品です。勝利祝いや誕生日などお友達と一緒に是非! びっくりです。

ハンバーグレストラン

びっくり ドンキー®

河原町店 京都市上京区河原町九条下ル伊勢屋町396-1
☎075-223-1411 ●11:00~翌2:00

河原町三条店 京都市中京区河原町三条東入ル南側 三条裕豊ビル1・2F
☎075-253-4800 ●11:00~翌5:00

千本五条店 京都市下京区中堂寺坊町63 (五条通千本東入ル)
☎075-823-6150 ●11:00~翌2:00

山科店 京都市山科区大塚森町11-10
☎075-583-2364 ●11:00~翌2:00

伏見店 京都市伏見区下鳥羽広長町37-4
☎075-603-6448 ●11:00~翌5:00

向日店 向日市森本町15番7 ナムコワンダーシティ京都市南内
☎075-924-6500 ●11:00~翌2:00

宇治横島店 宇治市横島町二十四57-1
☎0774-25-6706 ●11:00~翌2:00

大津店 大津市におの浜3丁目1-5 ロックアヤハプラザ内
☎077-527-9195 ●11:00~翌2:00

草津店 栗東市小楠7丁目8-8 ティサンクスクエア内
☎077-551-5291 ●11:00~翌2:00

枚方店 枚方市須山町1161 サンシャインプラザ枚方内
☎072-898-7039 ●11:00~翌2:00

高槻店 高槻市上牧南駅前町161-4
☎0726-69-6080 ●11:00~翌2:00



盆栽美術家

川崎 仁実

Kawasaki Hitomi

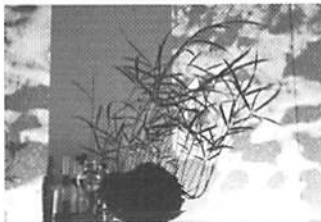
KYOTIAN I.D.

キョーティアンアイディ

【プロフィール】

80年京都市生まれ。SONYのハンディ・ビデオ、ビデオデッキ2台、接続ケーブルの束…。およそ女の子らしからぬワンルームの様相だが、京都文教短期大学卒業後は映像の専門学校に進み、ダンス専門の劇場カメラマンの経験も持つ「異色さ」の説明にはなるだろう。

ミイラとりがミイラに? いやその野心は必然なのだ。



本来、盆栽というのは平面で観るもの。床の間を持たない現在の住宅事情も含みつつ、「ならば最初から平面に」と考えた彼女の背景ごと二次元で盆栽を捉えた代表作



剪定に使われる費用の品。それぞれに立派な銘があるはずだが、ご本人にはさほどこだわりはない。曰く、「オジサマ達からの買物です(笑)。したたかなものもある



三次元の作品は市内のショップを飾る事も。フラワーアレンジメント日本古来版という話勢が過ぎる。写真は「和カフェユズドリ+godmezrow」のもの

Information
ART CORE JAPAN : Hitomi Kawasaki
<http://www.fitcore.com/art/artist/index/hitomi/index.html>
www.gendaibonsai.com

GENDAIBONSAI JAPAN
www.gendaibonsai.com

2003年4月18日(金)より、
新風館3F ITRANS-GENRE 02にて
—ARTとしての盆栽—開催。
11:30~18:30 入場無料
問い合わせ 新風館 (075-213-6688)

「何十年もやってるけど、女の子が制服で見に来たのは君が初めてや。4年前、京都で開催された「日本盆栽大観展」に一人でやって来た彼女に声をかけた関係者の心持ちは「嬉しいような不思議なような」だったに違いない。その少女、川崎仁実さん、当時18歳の女子高生。京都の古い家に生まれた。本家は御所に近く、ご近所に人間国宝がいることが普通、そんな環境に育った。幼い頃からバレエに日舞、やれと言われたわけではないが、高校時代は4つのクラブとバイトを掛け持ち、能や狂言を見に行くのも好きで、「遊ぶ友達いなかったですね」と笑う。盆栽への興味もそれらと同軸にあった。声をかけられ、やがてハントされたのは盆栽人としては無論なく、業界誌のモデルとして。うら若き女性が「近代盆栽」という雑誌の、それまでとは大きく趣を異にしたであろう表紙を飾ること数度。ミイラとりがミイラに…ではないが、モデルを務めるうち、撮影に際して教わる動作・所作が彼女の身に自然と染み込んでいく。頂戴した通り名は「盆栽界のアイドル」。

アイドルとは偶像。それは物言わず、考えぬ人形である。だが彼女には立派な知能があった。「昨今の盆栽ブームは、秘密に言う盆栽ではないですね。盆栽風の植物」というだけで。そもそも盆栽は知識のない一般人にはできません。本物を見たことがない人が「この木は本来こうあるべきだ」という絵描きと剪定する技術がないままインテリアとして買うから、すぐに枯らしてしまう。「日本の文化やのに痛いなあ、どないやねんっ」と思いますよ(笑)。ところが茶道や華道のように、盆栽には「道」がない。だからそもそもどこからが正道で、どこからが邪道かという線がない。そのくせ江戸の世から「カチカチに守られている」閉塞状態が、結果愛好家人口の先細りを生んでしまっている。

「守る時代は終わりました。学問として盆栽学を確立したい」。勇ましい野心を抱いて、少女は旧態の世界を泳ぐ。歳もキャラクターも、これはドラマティックではいかにオジ様たちのアイドルとして「覗かれるのでは?」と思うのだが、彼女の活動全てに日本盆栽協会の墨付きを得るあたり、なかなか如才がない。いや、変化を求めているが、シガラミがある業界が「プレイクルーする新しい血を求めている」、その空気を嗅ぎ取った彼女の勝利と呼ぶべきか。

来年4月には、新風館にて全国規模の展覧会「現代盆栽展」を彼女が仕切る。ゆくゆくは海外で、とも考えている。「どうやら晩婚ですね(笑)。まだ22歳、成功と婚期を同次元で話すには早すぎやしませんか?」